



韓国における 社会科授業研究の現況と課題



権五鉉
(韓国慶尙大学校)

1. 問題の所在

*論文の目的: 韓国¹の社会科学授業研究の現況と課題について叙述

*対象とする授業研究の範囲:

-授業を直接的な対象とする研究[授業づくりと授業分析、授業批評など]

-授業改善を主な目的とする研究[研究者が授業改善の明確な意図を持って、授業の現状を説明したり、改善の方案を処方する研究]

1. 問題の所在

*対象とする時期：1990年代以後から現在まで

- 研究者の急増：教科教育専攻の博士課程設置(1980年代の半ば)、教科教育専攻者の本格的な採用、教科教育専攻の研究者たちの帰国
- 第6次社会科教育課程の目標：国民性の育成から市民性の育成へ転換
- 現在の社会科授業研究の基になる多様な研究主題と方法論の登場

1. 問題の所在

授業研究の
パラダイムの
変化を反映

*授業研究の類型化

- ①過程産出(process-product)研究：行動主義
- ②媒介過程(mediating process)研究：認知主義
- ③質的(qualitative)研究：解釈主義
- ④文献研究：授業の歴史、外国との比較、外国の授業理論や授業モデルの紹介、授業研究の動向や方法論の研究など
- ⑤混合研究(Mixed Methods Research)：量的研究と質的研究の方法を同時に活用

1. 問題の所在

－日本の研究者たちに韓国^①の社会科授業研究の現況と課題を紹介

①授業研究に影響を及ぼした主要な要因：制度的要因、学問的要因、社会的要因に分けて検討

②授業研究の現況：1990年代の以後の研究成果を対象にし、五つの類型ごとに研究動向を整理すると共に、具体的な事例を紹介

③韓国^②の社会科授業研究の課題の提示

II. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

- ①制度的要因：教育課程の思潮の変化
- ②学問的要因：外国理論の導入
- ③社会的要因：民主化、世界化(国際化)、
情報化

II. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

1. 制度的要因：教育課程の思潮の変化

教育課程に提示された**教授学習方法**を
具体化したり、**教育課程の改定に反映**
されうる新しい教授学習方法を提案す
る方向で研究

II. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

1. 制度的要因：教育課程の思潮の変化

①教授要目期から第2次教育課程期まで：

- アメリカ式の社会科の導入と共に、経験中心の教育課程が強調。
- 社会科授業研究は、殆ど行われていない。
- アメリカや日本の資料が翻訳され、問題解決学習を中心とする社会科の教授・学習方法が紹介(問題解決学習、プロジェクトメソッド、討議・発表学習、分団学習法、単元学習法など)

II. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

1. 制度的要因：教育課程の思潮の変化

②第3次教育課程期：学問中心教育課程。

-社会科授業研究の多くは、探求学習と思考力の伸長の方案に関するもの。

③第4次教育課程期：人間中心教育課程。教授学習方法は、探求学習と地域学習が強調。

-社会科授業研究は、探求学習と思考力の伸長の方案に関する研究が主流であり、地域学習に関する研究も重視。

II. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

1. 制度的要因：教育課程の思潮の変化

④第5次教育課程期：統合中心の教育課程。教育課程の地域化。

-社会科授業研究は、探求学習と思考力の伸長に関連する研究が重視、概念学習に関する研究も活発。

-特に注目されるのは、民主市民意識を涵養するための小集団学習や価値問題の意思決定学習などの研究が現れたこと。

-このような研究成果は、第6次教育課程に反映。

II. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

1. 制度的要因：教育課程の思潮の変化

⑤第6次教育課程期：国民的資質の育成から市民的資質の育成に目的が転換。教授学習方法として協同学習、参与、意思決定学習などが強調。

－社会科授業研究は、質的研究が新しく登場。

－探求学習や思考力の学習、問題解決学習を再照明。

－意思決定学習、価値探求学習、論争学習などの研究も活発。

－このような授業研究の結果は、第7次教育課程に反映され、多様な教授学習方法が提示。

II. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

1. 制度的要因：教育課程の思潮の変化

⑥第7次教育課程期：構成主義の教育理論を取り入れ、**学習者中心の教育課程**が強調。

教育課程の教授学習方法も開かれた学習、水準別学習、授業の個別化などのような**構成主義の教育理念**を反映したものが提示。

さらに**情報化社会の進展**を反映してコンピューターとインターネットの活用学習なども強調。

II. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

1. 制度的要因：教育課程の思潮の変化

⑥第7次教育課程期

- 社会科授業研究でも**構成主義的観点**を取り入れた研究活発
- コンピューターとインターネットなどを活用した**媒体活用**
方案に関する研究も展開
- 新たに**授業分析、授業批評、授業評価、授業コンサルティング、教師の教授内容知識(PCK)**などに関する研究も登場
- 従来の**争点学習、問題解決学習、探求学習、討論学習、思考力学習**などの研究も多様な形で展開
- そのような**研究傾向は、現在までも続いている。**

II. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

2. 学問的要因：外国理論の導入

外国、特にアメリカの教育思潮と教授学習理論などの影響を受けて展開

- 初期：アメリカや日本の本を翻訳、問題解決学習を中心とする教授学習方法を紹介
- 1950年代：中央教育研究所がアメリカの教授過程と学習指導に関する本を翻訳、紹介
- 1954-1955年：アメリカ教育使節団の紹介

11. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

2. 学問的要因：外国理論の導入

- 1969年：アメリカのピーボディ教育学部のジャック・アレン(Jack Allen)が訪韓の招聘講演で探求学習を初めて紹介
- 1970年代の初：韓国教育開発院の社会科学教育研究室がマシアラスとコックス(Massialas & Cox)の探求学習理論を基にして探求学習の研究と普及。

II. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

2. 学問的要因：外国理論の導入

-1980年代の後半以後：価値探求学習、意思決定学習、問題解決学習、争点学習、ディベート学習、協同学習、シミュレーション、STS授業などの**教授学習モデル**の紹介。

認知的徒弟理論、認知的柔軟性理論、問題中心学習(PBL)、状況学習理論などの**学習理論**の紹介。

質的研究の方法論、アイズナー(Eisner)の教育批評の理論を活用した**授業批評の研究**、シュルマン(Shulman)などの**教師知識に関する研究成果**を用いて**社会科授業の現状**を理解したり、**教師の授業専門性を向上**しようとする研究など。

11. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

2. 学問的要因：外国理論の導入の問題点

- 韓国と異なる教育状況で開発された授業理論の無批判的な受容による**理論と実践の乖離**
- 理論に対する理解の不足と授業状況の違いなどによる**実践の限界**
- **社会科の特性や教育内容の違いなどを考慮せずに画一的に特定の理論とモデルだけを強調**
- **韓国的な現実を反映した独自の授業研究方法の開発、実践する努力の不足**

II. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

3. 社会的要因：民主化

- 1990年代から本格的な影響：第6次教育課程の社会科の目標が国民的資質の育成から市民的資質の育成に変換
- 『社会科教育』（第23号：1990）：民主市民意識を培養するための小集団学習の方法、価値問題の意思決定学習、協同心の涵養の方案、民主的政治意識の発達を促進するための教材開発と適用などの論文掲載
- 1990年代以後の授業研究：意思決定能力の伸長、社会的論争問題、批判的思考力の涵養、参与学習、人権学習などのように市民的資質の涵養を目指す研究成果が多く登場

II. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

3. 社会的要因：世界化(国際理解教育の研究)

国際理解教育、グローバル教育、多文化教育の順

-1982年の『社会科教育』(第15号) = 国際理解教育の特集号、
『社会と教育』(Vol.5) = 国際理解の増進のための学習方法→ 国際理解教育の必要性と方向を提示、**授業研究はあまり見られない。**

- 『社会科教育』(第27号：1994) = 再び国際理解教育を特集→ 国際理解教育を**授業研究の次元でも本格的に取り扱い**始めた。

II. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

3. 社会的要因：世界化

- グローバル教育の研究：1990年代の後半から、グローバル教育のための授業モデルやグローバル問題の授業方案などの研究
- 多文化教育の研究：2000年代の半ばから、社会科教育でも多文化教育の研究が開始。授業研究の場合、多文化学習のモデルや授業プログラムの開発、映画を活用した多文化授業の方案、人権教育を中心とした多文化教授学習の戦略などの研究

II. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

3. 社会的要因：情報化

1990年代の半ばから情報化社会の影響が本格化

-第1段階の教育情報化事業(1996-2000年)：コンピューターとインターネットの普及

-第2段階の教育情報化事業(2001-2005年)：

ICT(情報通信技術:Information & Communication Technology)活用教育に重点

II. 授業研究に影響を及ぼした主要な要因

3. 社会的要因：情報化

- 1990年代の後半までの授業研究：主にコンピューター、インターネット、マルチメディア、パワーポイントなどの**媒体活用の授業方案**に関する研究
- 2000年代の初めからの授業研究：**ICTを活用**した探求学習、討論学習、問題解決学習などの**実践方法と効果、情報活用能力とメディア・リテラシーの育成方法**などの研究
- 最近の授業研究：**デジタル教科書**を活用した授業に対する**質的研究、スマートフォンのGPS**を活用した地理学習モデルの**開発**などの研究

Ⅲ. 社会科授業研究の類型と事例

- ①文献研究
- ②過程産出(process-product)研究
- ③媒介過程(mediating process)研究
- ④質的(qualitative)研究
- ⑤混合研究(Mixed Methods Research)

III. 社会科授業研究の類型と事例

1. 文献研究：類型

- 文献研究が占める割合はとても高い(外国理論への依存、実証的な授業研究の方法論の未確立)
- 文献研究の類型：外国文献を活用した教授学習モデルの開発研究、過去の授業関連資料を活用した歴史的な研究、授業研究動向の分析研究、社会的変化と要求を反映して授業改善の方向と方法などを提示する処方的な研究、授業研究の方法論の研究など

III. 社会科授業研究の類型と事例

1. 文献研究:1990年代以後の**教授学習モデル**研究

シミュレーション、価値探求学習モデル、創意性の伸長のための問題解決学習モデル、意思決定学習モデル、意思決定能力の伸長のための経済授業モデル、集団意思決定の合意志向モデル、概念授業モデル、協同学習モデル、論争授業のための賛反協商モデル、DIE(Drama In Education)論争学習モデル、法教育の論争問題の授業モデル、段階型討論モデル、論争中心の協同学習モデル、映像媒体活用の授業モデル、ウェブ基盤の教授学習モデル、ウェブ基盤の問題中心学習モデル、ICT活用授業モデル、ICT活用の経済問題解決学習モデル、スマートフォンのGPSを活用した地理学習モデル、コミュニケーションモデル、社会参与の体験学習モデル、参与と社会的行動学習モデル、多文化授業モデル、認知的徒弟理論の適用モデルなど

Ⅲ. 社会科授業研究の類型と事例

1. 文献研究：教授学習モデルの特徴

- 外国のモデルを變形、複数のモデルを結合
- 市民性の涵養：意思決定学習、論争学習、協同学習、参与学習など
- 最新媒体の活用方法：ICT 活用、スマートフォンの活用、インターネットの活用など
- * 変化：文献研究を通して開発したモデルの提示、授業案の例示→ 2000年代の以後から、開発したモデルを適用して授業を実施し、その効果を検証

III. 社会科授業研究の類型と事例

1. 文献研究：具体的な事例

「社会科におけるウェブ基盤の問題中心学習モデルの具案」

- **先行研究の分析**：問題中心学習の有用性とインターネットを活用した授業方法の類型など
- **モデルの開発**：問題提示から問題提出の段階までの全過程で、インターネットを活用するモデル。主に問題解決に焦点を合わせてインターネットを活用するモデル
- **授業案の提示**：高等学校の1学年の市民生活と法文化の領域に適用して概略的な授業案を提示

III. 社会科授業研究の類型と事例

2. 過程産出研究：授業の効果性研究

- 授業研究の最も伝統的なパラダイム
- 授業でなされている教授活動の過程が、学習者にどのような学習効果があるかを研究

Ⅲ. 社会科授業研究の類型と事例

2. 過程産出研究：教育大学院の修士論文

- 授業の形態、教授学習モデル、発問の類型、学習集団の類型、教授媒体、学習資料、授業技法、授業空間の類型などが、学習者の態度、能力、動機、認知、学業成就などに及ぼす影響と効果を設問調査や評価などで測定、最近では、研究対象とする過程要因と産出要因が多様化。
- 標本選定の方法や測定道具の妥当度と信頼度、分析の技法などに欠陥のある場合が多い。

Ⅲ. 社会科授業研究の類型と事例

2. 過程産出研究：学術誌に掲載された研究

- 1990年代の以後から本格的に登場
- 過程要因：協同学習、授業環境、問題中心学習、論争問題、教授学習モデル、質問の戦略など
- 産出要因：学業成就度が最も多く、高級思考力、創意的思考力、批判的思考力などの思考力も多い。その外に意思決定能力、問題解決力、自己主導の学習力、授業の魅力性、時間概念の理解、市民性の涵養、政治的効能感など。
- * **研究の不振**：統計学的な技法を活用できる研究者が少ない。特定の要因だけに焦点を合わせて複雑な授業現象の効果を検証することについての疑問。

III. 社会科授業研究の類型と事例

2. 過程産出研究：具体的な事例(問題意識)

「公共争点の社会科討論学習における消極的な参加者の政治的効能感の増進効果」

* 学習者たちの消極的な参加のために公共争点の討論学習はあまり効果がないと懐疑的に認識し、それを忌避する傾向。

→ 公共争点中心の社会科討論学習が、消極的に参加する学習者の政治的効能感を増進するかどうかに関心を合わせて授業を実施、効果を測定

III. 社会科授業研究の類型と事例

2. 過程産出研究：具体的な事例(方法)

-消極的な**参与集団**(授業での平均の**発言頻度**が1.0回未満)、積極的な**参与集団**(5.0回以上)、一般的な**参与集団**(1.0回以上から5.0回未満)に分類

→ 中学校の 2-3年生の460名を対象として、八つの**社会的な争点**を選定し、5週間にわたる**小集団討論授業**を実施

→ 政治的な**効能感**を測定するための**事前検査と事後検査の結果**を一元分散分析(ANOVA)の方法で分析

III. 社会科授業研究の類型と事例

2. 過程産出研究：具体的事例(分析の結果)

1. 政治的効能感：消極的な参与学習者の集団は他の集団に比べて**高い政治的効能感の増進効果**

2. 内在的な効能感：消極的な参与学習者の集団が他の集団に比べて**内在的な効能感の増進効果が低い**

3. 外在的な効能感：他の集団より消極的な参与学習者の集団は**持続的に高い外在的な効能感**

→ 消極的な参与学習者を含め、多様な参与の様態をもつ学習者で構成された社会科授業の特性が、公共争点の討論学習の障害にはならない。

III. 社会科授業研究の類型と事例

3. 媒介過程研究：教師と学習者の思考研究

- 媒介過程研究は、教授と学習を媒介するものを教師と学習者の思考と看做し、授業で行われる教師と学習者の思考過程を研究の主題としている。
- 韓国の場合、媒介過程研究は1990年代から紹介され、2000年代から本格的に研究。
- 社会科授業研究で占める割合はあまり高くない。

III. 社会科授業研究の類型と事例

3. 媒介過程研究：学習者の思考過程の研究

- 構成主義の学習理論の導入によってその必要性が強調されているが、研究成果は多くない。
- 代表的な研究：概念図、非操作資料(原資料)、社会科付図の資料などを活用して、**学習者の認知構造の変化を解明**した研究、問題解決授業モデルを活用した授業による認識の変化を**学習者の作文と思考口述の記録などを分析**して解明した研究、役割遊びの授業で見られる児童の**歴史的概念の変化を分析**した研究、歴史新聞の製作で見られる児童の**歴史理解の過程を分析**した研究など

III. 社会科授業研究の類型と事例

3. 媒介過程研究：教師の思考過程の研究

- 授業と関連する**教師の知識に焦点**
- 授業の観察、教師の面談などで収集した資料を質的に分析する**事例研究が多い**。
- 教師知識研究の三つのアプローチ方法(**情報処理的アプローチ、実践的知識のアプローチ、教授内容知識のアプローチ**)が全て現れている。

III. 社会科授業研究の類型と事例

3. 媒介過程研究：教師の思考過程の研究

- 情報処理的なアプローチ (information processing)：初等学校の現職教師と教生の**社会科授業の計画過程を比較**
- 実践的な知識 (practical knowledge) のアプローチ：初等学校の社会科授業で見られる教師の**実践的知識**を分析、高等学校の地理授業で**初任教師と経歴教師の実践的知識を比較**、教育実習の過程で**経験した授業実践と反省**を分析
- 教授内容知識 (Pedagogical Content Knowledge) のアプローチ：初等社会科の授業の教授内容知識、初等学校の歴史授業の**内容変換 (transformation) から教師の教授内容知識を分析**、中等学校の歴史授業の教授内容知識

III. 社会科授業研究の類型と事例

3. 媒介過程研究：代表的な事例(目的と観点)

「教師の実践的知識で読む初等社会科の授業」

- 目的：初等社会科の授業に見られる教師の実践的知識を捉えて、社会科授業の現象を深層的に理解
- 観点：エルバズ(Elbaz)の教師の実践的知識の区分
- ***内容(content)**:授業に見られる実践的知識の内容要素(教育課程知識、教科内容知識、教授学習知識、教師自己知識:self knowledge、学校環境知識)
- ***定向(orientation)**:教師の実践的知識に影響を及ぼしている背景的な知識(理論的な定向、状況的な定向、社会的な定向、個人的な定向、経験的な定向)
- ***構造(structure)**:授業に現れる複雑で多様な実践的知識を一般化の程度によって構造化したもの(実践の規則、原理、イメージ)

III. 社会科授業研究の類型と事例

3. 媒介過程研究：代表的な事例

- 方法：二人の初等学校の教師を対象、参与観察法と構造化及び半構造化した面談で資料収集、実践的知識の三つの範疇でコーディング、解釈
- 結論：実践的知識の観点から授業を理解すると、**社会科授業現象の力動的な過程がよく理解**できると共に、教師の役割をより積極的で能動的なものとして認識するようになって、**教師の持続的な自己省察を可能**にする。

III. 社会科授業研究の類型と事例

4. 質的研究：1990年代の研究

- 研究方法：Micro-ethnographic research method
- 代表的な研究成果 *中等学校の社会科の経済授業で行われる社会的相互作用を分析した研究：授業の組織、対話の移動様式、社会的参与構造などの概念を用いて授業を分析、教育的効率性を優先する韓国の授業文化の特性を解明
- *中学校の社会科授業で教師が教科内容を変換する方式を解明した研究：教科の変換という概念を用いて中学校の社会科授業で専攻の異なる教師が専攻領域と非専攻領域を教える時、教科内容をどのように変換して教え、各領域での相互作用がどう変わるかを分析

III. 社会科授業研究の類型と事例

4. 質的研究:2000年代以後の研究(研究方法論)

- エスノグラフィー(ethnography)を活用した研究が最も多い
- 根拠理論(Ground theory)、事例研究(case study)、自然主義的探求(Naturalistic Inquiry)、アクションリサーチ(action research)などの方法論を活用した研究も登場

Ⅲ. 社会科授業研究の類型と事例

4. 質的研究：2000年代以後の研究(主題と形態)

社会科授業の全般的な特徴を記述する研究・行為者(教師、学習者)の観点から行為の持つ文化的な意味や特徴を記述する研究・授業で活用する教師の知識(実践的な知識、PCKなど)を記述する研究・教科書などの活用事例を記述した研究・教育課程や教室環境の変化などによる授業の変化の様相を記述した研究・特定の教授学習方法を活用する授業の特徴を記述した研究・特定の教授学習方法やモデル、資料などを活用した授業を実践してその結果を記述したアクションリサーチ・批評の方法を活用して授業の意味を解釈した研究

III. 社会科授業研究の類型と事例

4. 質的研究：最近の研究の特徴と問題点

- 殆どの研究が自然な状況で文化的な行為と場面を記述し、その中で行為者の意図と文化的意味を解釈
- 研究の目的と対象が細分化されていないために多様な質的研究の方法が活用されていない。
- 研究報告書の論理構造と文体は量的研究の報告書で活用する方式がそのまま使われることが多い。
- 質的研究の妥当性を確保するための方法が活用されないことが多い。

III. 社会科授業研究の類型と事例

4. 質的研究：代表的な事例(授業批評)

「三つの視線からの授業の読み-初等社会科の文化財授業に対する授業批評」

*対象：初等学校の4学年の社会科の文化財授業

*方法：授業批評のテキスト的性格と授業批評の類型を理論的に検討→ 三つの観点による授業批評

①授業の効率性を重視する読み：授業評価用のチェックリストを使ったときに捉えられる授業の意味

②授業の指揮者である教師の読み：教師の生涯史的な経験の中で授業実践の持つ意味

③授業の教科的意味の読み：教科変換の次元で授業の意味を理解

結論：授業の多次元的な意味の顕示。実践家の省察力の伸長。

III. 社会科授業研究の類型と事例

5. 混合研究：意味と類型

－意味：一つの研究で質的研究と量的研究の方法論や資料などを同時に活用する研究

－類型 ①混合モデル型研究(Mixed Model Design)：研究問題を解決するために質的研究、あるいは量的研究の枠組みで複合的な資料や解釈の方法を使う

②混合方法型研究(Mixed Methods Research Design)：一つの研究で相反する研究設計の複数の小規模の研究が一緒に進められる

III. 社会科授業研究の類型と事例

5. 混合研究：混合モデル型研究

- 代表的な事例：量的研究の方法論を活用しながらも、質的資料を追加して活用するアクションリサーチ
- 特徴：修士論文で多く見られる。研究者である教師が特定の教授学習の方法やモデル、資料などを活用した授業を実施して、その効果を検査紙などを使った量的方法で検証しながら、学習者との面談や作文などの質的資料を追加して研究を行っている。

III. 社会科授業研究の類型と事例

5. 混合研究：混合方法型研究

– 代表的な事例：社会科授業の評価基準の開発研究と授業コンサルティング(teaching consulting)の研究など

①社会科授業の評価基準の開発研究

– 教員任用試験の模擬授業の評価基準の必要性から研究

– 韓国教育課程評価院の主導

– 文献研究と設問調査、授業観察、教師の面談などの多様な方法を活用、社会科授業の評価基準の開発、活用の方案の提示

→ 研究の結果を修正し、初等学校の社会科授業の評価基準を開発すると共に、実際に適用した研究も

III. 社会科授業研究の類型と事例

5. 混合研究：混合方法型研究

②社会科授業のコンサルティングの研究

- 2000年代から従来の授業奨学に代わる**教師の専門性の向上**のための方案として登場
- 授業のコンサルティングの意味：自分の授業の改善を希望する教師が信頼できるコンサルトの助力をもらって授業の問題点を発見し、改善する過程
- 研究の類型：授業コンサルティングの**モデルの開発**、**実行研究**による効果の分析などの研究

Ⅲ. 社会科授業研究の類型と事例

5. 混合研究：混合方法型研究

②社会科授業のコンサルティングの研究

- コンサルティングのモデルの開発：文献研究、設問調査、教師との深層面接、授業の参与観察、アクションリサーチなどの多様な方法を活用した混合研究の性格、コンサルティングの内容要素をまとめると共に、実行方法と手続きなどを提示
- 初任教師を対象とする方案の開発：アクションリサーチや事例分析、授業観察などの方法を活用して、初任教師を対象とする授業コンサルティングの方案を開発

III. 社会科授業研究の類型と事例

5. 混合研究：代表的な事例(研究の方法と過程)

『授業評価基準の開発研究(Ⅰ):一般基準及び教科(社会、科学、英語)基準開発-』

-授業評価の**一般基準を開発**し、それを基にして**教科ごとの授業評価基準(案)**を提示、基準を適用するための**活用の案を提案**

-研究方法と過程：

- ①既存の社会科の授業評価と関連する**国内外の文献の分析**
- ②**授業評価の実態**を設問調査と授業観察、面談を通して分析→**社会科の授業評価基準の必要性と要素などの抽出**
- ③**基礎論議と実態調査から得られた情報に基づいて、社会科の授業評価基準(案)を開発**

III. 社会科授業研究の類型と事例

5. 混合研究：代表的な事例(評価基準の構成)

- 基本知識と能力、授業企画能力、授業実行能力、専門性の向上という**四つの大領域**で構成
- 授業の流れ**を基本的な社会科の授業評価の領域に設定
- 授業の運営の段階を**授業企画**と**授業実行**に分けている

III. 社会科授業研究の類型と事例

5. 混合研究：代表的な事例(四大領域と評価要素)

- ①基本知識と能力：社会科の**目標**に対する**観点**、社会科の**内容**に対する理解、社会科の**教授学習方法**と**評価**に対する理解、**学習者の発達と興味**に対する理解
- ②授業企画能力：社会科の**授業計画**と**準備**
- ③授業実行能力：社会科の**教授学習方法**の活用、適切な**学習目標・集団の組織**と**学習雰囲気**の助成、社会科の**評価**の活用
- ④専門性の向上：社会科の授業に対する**自己反省**、社会科の授業に対する**仲間の奨学**

IV. 終わりに－課題

①**韓国**の教育状況を反映した**独自の**な授業理論の**開発と実践**：**実践**されている**社会科**の授業を多様な**観点**から**観察**して記述すると共に、それを基にして**授業改善**のための**方案**を**模索**して**理論化**し、**実践**する**方案**を講じなければならない。

②**研究方法論**の**改善**と**訓練**を通して**授業研究**の**全般的な質**を**高める**：**最近**、多様な**方法論**が活用されているが、**研究**の**妥当度**と**信頼度**、**分析技法**などに**欠陥**のある場合が多い。**授業研究方法論**の**訓練**を**うける機会**を提供すると共に、**授業研究方法論**の**研究**もさらに**進める**必要がある。

IV. 終わりに－課題

- ③他の教科とは異なる社会科の特性を反映した授業研究：社会科の特性や各領域(歴史、地理、公民)の違いを考慮。社会科の独自のな教授学習の理論を開発、一般的な教授学習の理論を活用したり他の教科の理論を取り入れる時も、社会科の特性に合わせて修正、変更。
- ④授業評価や授業コンサルティング研究の方向性の再考：授業の標準化と画一化。授業を総体的に観察することではなく、標準化された枠組みにあわせて要素ごとに解体し、授業の効果性と効率性を評価。第三者による標準化された評価よりも教師自らが自分の授業を反省して改善する機会と方法を提示。教師の反省的実践の能力を高める方向へ転換。

IV. 終わりに－課題

⑤**社会科授業研究の素材になる教師の実践記録の蓄積**：韓国の場合、教師たちが自分の授業実践を記録して公開する伝統が、いまだに確立されていない。社会科関連の教師団体が発行する雑誌やエデュネット(edunet)などの教育サイトに授業の映像や指導案などが公開されているが、その数はとても少ない。**公開された授業に対する多様な関連情報と脈絡を忠実に提供**している場合は殆どない。社会科授業研究の活性化のためには、**研究の素材となる授業実践の資料を効率的に蓄積し、管理する**方案を講じる必要性がある。



ありがとうございます。

THE END